



デマンド型交通実証実験事業

①抱えている課題

町内の路線バスは、地域内の足を確保するため、町が自主運行バスとして運行していますが、過疎化の進行による人口減少や児童生徒数の減などにより乗車人数が減り、年々町の負担額が増えていることが課題となっている。

②課題に対する取組み

現在の大型バスによる運行を見直し、デマンド型交通の実証実験を行う。

デマンド型交通とは、路線バスとタクシーの中間的な位置にある公共交通機関のこと。事前予約により運行する特徴があり、運行方法や運行ダイヤ、発着地の自由度の組み合わせにより、多様な運行形態が存在する。



③目指している将来像

県道沿いだけでなく、集落内や役場など、様々なところにバス停を設置し、利便性の高い交通機関とすること。

④企業様に向けたメッセージ

車社会において、バスを移動手段として利用する人は年々減っています。本町では、5年間（H28～R3）で利用者数が50%も減少しています。これは本町に限った話ではなく、伊豆半島エリアや他県においても似た状況です。このデマンドバスは、集落内にバス停を設置することで、これまで路線バスを利用していなかった新たな顧客を獲得し、高齢者などの外出機会を増やすきっかけになります。このデマンド交通が導入され浸透していくことで、日本全体の公共交通のあり方に大きく影響すると信じています。

そんな松崎町の取組みを応援し、ご支援いただける企業を募集しています。